

産業人クラブだより 一かけはし



船の科学館に展示される南極観測船
「宗谷」。56年には発電機など電気
機器を納入した

「原...」
いだつた。

小さくても本物

「原料へのこだわり」が三島食品(広島市中区、三島豊社長、082-245-3211)の原点。自然に学ぶことを根本に据え「良い商品を良い売り方で」を経営指針としている。

この葉菜通り、主力製品「ゆかり」の原料である赤シソの自家栽培と品種改施設の設置に続き、自ら「青のり」の原材料となるスジアオノリの養殖に踏み切った。その名も「三島食品研究所」室戸海洋資源開発センター。「少々仰々しいが、気合を入れて命名した」(三島社長、写真)。

施設は青のりの養殖、増産が目的。各地の産地の収穫が不安定の中、通年で原材料を安定確保できればコストの安定にもつながるという。さらに高い品質を保つために、高知県室戸市の海洋深層水を使い、高知大学の養殖特許技術を活用する。「研究所」の名前を冠するにふさわしい一面も持つ。

「青のりは、香りと色が命。自社で

中国三島食品 原料にこだわり

原材料を納得のいくレベルまで品質改良できれば、商品もさらに高品質になる。

企業として大きなアドバンテージを得られる」と同期待する。わが国で数少ない陸上での海産物養殖施設だけに、海上よりも生産コントロールは容易といえる。

海洋深層水というミネラルをたっぷり含んだ「室戸ブランド青のり」の発売も近い。

中学時代からラジオ少年

東京電機・塩谷智彦社長(上)

弊社は茨城県つくば市に本社があるが、社名は株式会社東京電機。つくばなのに東京と付くのは会社の生い立ちによる。

1920年に東京・下町の南千住で精米用小型モーター、小型水車などを製造のために設立。その後茨城の土浦に工場を建てた。戦時中は会社統制令で電車の管理機器を納入した。現在は陸用船用発電機やモーターの製作を手がけ、56年には南極観測船「宗谷」に発電機ほかの電気機器を納入した。弊社は弊社製品である。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。

が、當時はまだ資金繰りに余裕がなかったのださう。冬のボーナスは12月と3月の分割払

いだつた。

人社翌年からは、当時の上司の勧めにより、開発を行うようになる。TOP型AVR、SR型速度制御盤に組み込む主要部品の開発に専念していた。この

機器は、船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気

機器を納入した。

その後、業容拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果

たすが、1964年5月に不渡り事故を起こし、会社更生法を申請することになった。苦難の日々でいたと聞くが、糸賀先生という立派な管財人のおかげで3年、会社更生手続きを終結させた。

この時期について、当時の市川

専務(後の第9代社長)が冊子に記載している。専務は「當時の市川

を離れて、我々後輩に当時の様子を伝えていただけだ。同じ過

ちを繰り返すな」と忠告と肝に銘じなければならない。

私が入社したのは、75年

年に土浦から桜村へ移転した後年の81年。中学時代からラジオ少年となり、最初の飛行機での北

海道と喜び勇んで出かけたが、なかなか帰れない。船頭さんから「電気の発電機が相次ぎ故障した」とのことだった。

船頭さんは検査科に配属され、その後送金してもらつた。今は懐かしい思い出だ。今では懐かしい思い出だ。當時滞在していた厚岸や霧多布に一度、女房に連れて行つてやると言ひながら、まだ現実していない。